

令和5年度 磐田市立豊岡北小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者 評価委員から
かんがえる花	主体的に学ぶ子	課題解決に向けて主体的に取り組む。 【82%】	A	○校内研修の重点を「子供と共に課題をつくる」として、子供たちが主体的に課題に取り組めるように意識して授業を展開してきた。導入の工夫や既習事項を生かすことで、課題づくりにつながられてきたが、その課題解決に向けて主体的に調べたり学んだり、学びを次へと生かしたりするためには、教師の支援の仕方や授業展開、学習活動の工夫がさらに必要になる。 ※子供たちの「知りたい」「わかりたい」「できるようになりたい」という気持ちをいかに引き出し、継続させ、自分の学びの評価へとつながられるかを校内研修と絡めて取り組んでいく。	○タブレットが主流になってきているのを感じる。文字を書いているのかなと心配になる部分もある。 ○子供たちが主体になることが、習得につながっていると感じる。
	豊かに対話し 学びを深める子	自分の考えと比べながら聴き、自分の考えに生かす。【83%】	A	○学府で共通して取り組んでいる対話の技や話し方・聴き方ピラミッドを活用しながら、話す聴く機会を多く設けることで、話すこと聴くことに慣れ、自分の意見が言えるようになってきた。比べながら聴くことも意識できてきているが、それを自分の考えに生かしたり深めたりすることにつながっている子は多くない。 ○学びを深める話合いが、グループでも全体でもできるようにしていく必要がある。	
なかよしの花	友達との関わりを通して、自分や友達の良さに気づき、伝える子	授業や活動(縦割りの活動、学校行事、委員会など)で、友達や自分のよさを見つけたり、伝えたりする。【85%】	A	○全校で取り組んでいるいいところ見つけの木を書いたり、紹介したり、学級でいいところ見つけをしたりしていることで、いいところを見つける目が育ってきている。 ※自他のよさを見つけることで、自己有用感につながり、さまざまなことに対してたくましくしなやかな心が育つようにしていきたい。	○地元では、あいさつする。外ではどうか。 ○あいさつは、保護者が意識しないとその場限り、学校だけになる。家庭に呼び掛けてほしい。
	相手を思うあいさつや言葉遣いができる子	相手を思うあいさつができる。【92%】 思いやりのある言葉遣いができる。【82%】	A	○前期の学校評価で、あいさつ・言葉遣いともに、児童の評価は高かったが、教員からの評価が低かった。そのため、教員の意識改革もし、あいさつ向上の活動も工夫した。教師が意識することで、子供の意識も変わり、全校のあいさつが向上してきている。しかし、まだ進んでできる子できない子、できる場面とそうでない場面がある。 ※今後もあいさつやふわふわ言葉を重点として指導を工夫していく。	
きたえる花	進んで運動に取り組む たぐましい子	積極的に運動や遊びに取り組むことができる。【85%】	B	○今年度も全校で体力アップコンテストに参加している。進んで運動や外遊びをする児童もいるが、消極的な児童もいる。 ※学級遊びや体育の授業で、運動の楽しさを味わわせながら、たぐましい心にもつながられるようにしていきたい。	○外遊びは地域によって違いがある。ゲームをしている子が多い。保護者の声掛けが必要。異学年で遊べる良さを生かしたい。
	何事もプラス思考で捉える しなやかな子	「今日のハッピー」を見つけられることができる。【80%】	A	○いいところ見つけの木を書いたり、紹介したり、学級で「今日のハッピー」見つけをしたりしている。「今日のハッピー」を見つけることはできているが、何事もプラス思考とまではいかない。 ※学府で共通して取り組んでいる「レジリエンスの育成」に今後も力を入れ、SCとも連携しながら、しなやかな心が育つようにしていきたい。	

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校や子供たちを温かく見守りながらも、地域の方から見た学校や子供たちの様子など、様々な御意見をいただくことができた。来年度の学校経営にも承認いただいた。家庭との連携により、より効果が上がるのではないかと御示唆を多くいただいた。この地域の良さを生かしながら、来年度も家庭、地域と連携し、地域の学校として、地域・家庭と共に、子供たちをたくましくしなやかに育てていきたいと感じた。

